

遊星面課報告 (1935年4月)

概況 比較的天候に恵まれたのと、人氣者の火星の最近を迎えて、當課開設以來の活氣を呈した。特に花山の荒木九臯、京都の前田治久兩氏が非凡な眼を持つて居られる事が見出されたのは收穫であつた。

報告

	伊達(11)	前田(10)	福井(11)	荒木(30)	荏部(26)	木邊(25)	合計
火星	7	53	1	7	4	18	90
木星	1	1					2

火星 4月に入つてから比較的シーイングよく6以上の日が可なり多く北半球の模様淋しい方面であつたが、その代り運河の多い方面だけに、我々のメンバーで50個以上が認められた。

前田、荒木、木邊諸氏のスケッチからは不確實なものも含めると夫々39、46、40個の運河と數へられて居るものが描かれて居る。7以上の良好な氣流状態に於て10 cm程度のもので普通の眼の所有者が見得る運河としては、デネトロニス、プロトニス、カシウス、トス、ネペンテス、アルシヨニウス、シトニウス、ギンデス、ケルベルス、ハデス、エウロスタス、アルセニウス、等で氣流のよくない伊達氏には大體右のものが描かれて居た。前田氏は氣流状態がよいが10.8 cmの口径で多く見えて居るのは熱心と相待つて特筆すべきであらう。然し前記の濃い運河と云はれて居るものは、大部分が所謂明るい場所と暗い場所との境界にあるもので、本當に見た所運河らしい鮮かなものは、ネペンテス、ケルベルス、ハデス、等の少數のものである。カシウスの如きは全く模様混合する位太く黒く、所謂運河と云ふ概念とは全く

様子が違つて居る。

極冠はその後あまり縮少は目立たない。

又白い斑點が常に端に見える事が多いが、17日頃には火星面の $150^{\circ}+40^{\circ}$ の邊に、異常に輝いた斑點が見えたが、或は火星面の雲であるかと思はれる。20日は同位置には目立つて居ない。

又海と云はれる模様は、當課として初めての接近なので、範圍の消長は不明である。

木星 北赤道の暗帯が大分變つて居るとの報を受けて居る。火星が遠ざかると、同時にこの星を攻撃して欲しい。

金星 例によつて有志の方の觀測を待つ。

猶火星の今季の觀測は6月中で一先づ終る事にして、6月が終れば報告洩れの方もスツカリ御報告を願つて、多分天界9月號には總決算を發表する心算で居ます。自己の成績なんかは考慮せずに少數でも必ず御送りを願ひます。

又6月には火星面の表は發表しませんが(紙面の都合上)目測を決定した時間を觀測時間以外に正しく記入していただければ宜しいです。(幹事記)

〔誌上急報〕

火星に雲が見えた!!

米國リク天文臺よりの報告によれば、去る三月12日の早曉、カイパ1氏は30種の赤道儀で火星を觀測中、赤道附近に純白の點々を多く見付けた。其の輝きは極冠と同じ程度のもので、正しく之れは火星面上に浮游する雲である。リク天文臺ではライト博士が翌13、14兩日にわたつて、火星の色寫眞を撮影し、上記のカイパ1氏の觀測を確めた。此の寫眞で見ると、火星の雲は赤外線の寫眞には全く現はれてゐないが、紫外線や普通の寫眞板には明らかに其の形が現はれてゐるので、此等の雲は可なり高い層のものであることが知れる。〔ASP 276〕

我が日本の火星觀測も、三、四月頃、火星の表面上にかうした白點を見た人があれば、報告して貰ひたい。

流星課月例報告 (53)

(1934年九、十月)

課長 小 橋 孝 二 郎

九月には南米の觀測者を除くと觀測數は極めて少數であつたが、十月にはこれに反して月初より月末まで觀測がよく行はれ、十數名の觀測者によつて900個以上の流星を集める事が出來た。今回は下記の二觀測者を新に紹介する。

淺 居 正 雄 君	横濱市
北 村 俊 吉 君	朝鮮京城府外清凉里

流星群の出現状況

I. ジャコビ=彗星に關聯する龍座流星群

稻垣、本田、勝、淺居、北村の諸君によつて10月9日及10日夜注意せられたが、結果は良好な晴夜なりしにもかゝらず殆んど出現が見られなかつた様である。

II. 十月のオリオン、双子流星群

稻垣、安武、富原(沖繩縣首里)、本田、吉井、大窪、勝浦、宇野の諸君によつてかなりよく觀測された。12日より21日に至る觀測期間中最も顯著であつたのは、Orionid にありては18~19日頃で、Geminid にありては20~21日頃であつた。出現の程度は略例年並のものと考へられる。

III. 其の他の流星群

九月下旬京都の宇野君及南米の勝浦君とによつてアンドロメダ ζ 星附近に輻射點を有する一流星群、及昨年稻垣、勝浦二君によつて見られた駈者座流星群が再び稻垣、宇野二君によつて認められた。

勝浦、大窪二君の9月29日前後の觀測中に魚座 ϵ 流星群があるが、これは昨年東京の勝君に認められた流星群と同一のものらしい。

本田君の10月27日より月末に至る觀測中に Leonid に屬するものらしき數個の流星がある様であるがあまり確ではない。淺野君が10月19日早曉 Orionid の觀測中 $\alpha=145^\circ$ $\delta=+17^\circ$ に輻射點を有する流星群の活動に注意された。これは十一月の獅子座流星群の先驅ではない様である。吉井君が10月19日朝

變光星課報告 (27)

倉敷 小山 秋雄

4月中の觀測報告數

觀測者	今津 續	木邊成 磨	加藤孝 一	沓掛七 二	高井博 典	笹部榮 一	森久保 茂	伊達英 太郎	佃 泰 三	鈴木一 男	小澤喜 一	井澤正 男	松本武 男	西川英 雄	西井宗 一	菫部 進	合 計
星數	14	14	12	13	2	4	0	0	2	14	5	0	0	3	2	9	
觀測數	84	144	66	85	4	24	0	0	9	95	55	0	0	8	9	65	646

●新に3月より報告を寄越された方に、神戸市灘區の菫部進氏がある。器械は26 $\frac{1}{2}$ 反射及15cm屈折である。上表の同氏の方は3、4月分、又鈴木氏の方は3月分である。●觀測報告の詳細は課報及花山ブレテンを見られたい。●別圖は1934年7月より12月までの**はくてう**座SS星の光度曲線であつて、觀測者並に觀測數は下記の通りである。(今津)

木邊成磨(68), 高井博典(26), 沓掛七二(15), 木下謙(29), 今津續(59).

來る7月極大に達するミラ型星

(本誌 104頁参照)

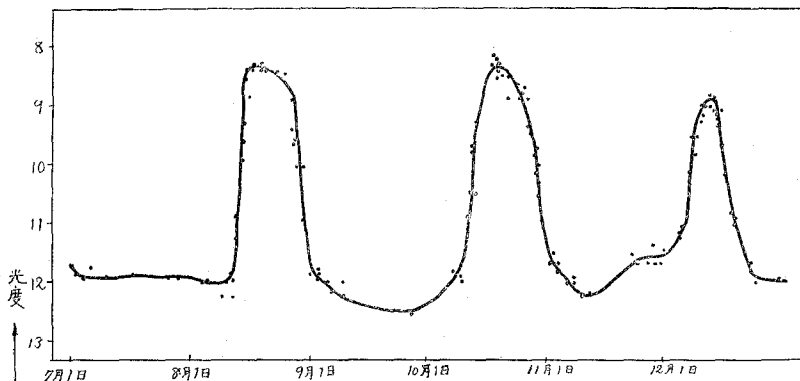
星 名	平均極大光度	極大豫定日
てんびん座RS星	7.6	7月2日
をとめ座R星	6.9	7 28
をとめ座SS星	6.6	7 12

てんびん座デルタ星の

極小豫報 (食變光星)

6 月		7 月	
3日	2.8時	1日	1.1時
7	18.5	8	0.7
10	2.4	15	0.3
14	18.1	21	23.8
17	2.0	28	23.4
21	17.7		
24	1.5		

はくてう座SS星の光度曲線



【注意】 天界 前號第266頁のダイアグラムはペガサス座R星の1934年の極大を示す。

尙、觀測者の符號は●木邊, +沓掛, △木下, ▲高井, □金田, ■西村, ○今津の諸氏、極大は9月14日、7.6等。

黃道光課月報

(1935年2, 3月分)

觀測者及び觀測數

氏 名	觀 測 地	2 月	3 月	觀 測 番 號
下 保 茂	北海道札幌市	0	1	205—
廣 瀨 永 治 郎	岐阜縣美濃町	—	—	
寺 町 忠 行	愛知縣豐山村	3	7	40—49
宇 野 良 雄	京 都 市	2	4	21—24
笹 部 榮 一	大阪府池田町	1	2	39—40
本 田 實	鳥取縣八東村	1	3	46—49
淺 野 英 之 助	山口縣長府町	1	0	53—
井 上 直 治	佐賀縣小城町	2	2	1—4

2, 3月共宵西天の觀測のみである。

2 月 觀測は月初め及び月末であるが、明るさは共に離角 40° の邊りで馭者座銀河の3倍位、普通である。頂點の離角 75° 位天頂銀河に至る光帯についてゐる。中心線の傾き月初め 1° 位の北傾で翌月へかけて傾きを増してゐる。これは各觀測が甚だよく一致してゐる。

3 月 月初め同時觀測を行つたが今回は好成績は得られなかつた。月初めの明るさは略前月同様であるが、月末稍々淡くなつてゐる。中心線の北傾は月末に至るに従つて益々大きい。とりたてゝ云ふ程の變動、消長もなかつた様である。日濠國際觀測は未だ打合せ中で實際に始まつてゐない。

對日照 2月に2回、3月に1回寺町氏によつて觀測された。

× × ×

◎五月より下保氏に代り新進氣鋭の廣瀨氏が幹事となられた。

◎同月より新幹事の御盡力で“課報”が再刊されてゐる。

◎今月より觀測報告は總て廣瀨幹事宛に御送附下さい。 (幹事)

◎本年度京都帝國大學宇宙物理學教室新入學生は下記の四名。

岩 月 藤 一 (東京高校)	松 丸 勝 (静岡高校)
藤 波 重 次 (高知高校)	清 永 嘉 一 (三 高)

太陽課 黑點相對數報告 (1935年四月)

觀測者(觀測地)	松本(臺灣臺中高女)	日野(松山師範學校)	改發(神戸市須磨區)	岡林(神戸市葦合)	荻部(神戸市灘區)	伊達(兵庫縣雲雀丘)	佐々(大阪市岡中學)	前田(京都市下京區)	木邊(滋賀縣中里村)	尾崎(宇治山田市)	沓掛(長野縣青木村)	清水(靜岡縣青田町)	森久保(橫濱市中區)	淺井(橫濱保土谷區)	水谷(東京市本郷區)	稻垣(東京市芝區)	進藤(東京世田谷區)	千葉(岩手縣水澤町)	下保(札幌市豐平町)
鏡徑耗	58	98	150	25	75	80	110	70	75	30	102	100	35	58	38	75	48	50	58
倍率	40	69	68	50	77	70	92	40	60	50	75	73	50	60	50	30	44	50	44
1	雨	欠	0								曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
2	雨	欠	0			曇	休	0	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
3	雨	欠	0			曇	休	0	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
4	曇	欠	0			曇	休	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
5	曇	欠	0			曇	休	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
6	曇	欠	0			曇	休	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
7	曇	欠	0			曇	休	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
8	曇	欠	0			曇	休	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
9	曇	欠	0			曇	休	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
10	雨	雨	曇	未		曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
11	雨	雨	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
12	曇	雨	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
13	曇	雨	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
14	曇	雨	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
15	曇	雨	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
16	曇	雨	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
17	曇	雨	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
18	曇	雨	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
19	曇	雨	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
20	曇	雨	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
21	曇	雨	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
22	曇	雨	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
23	曇	雨	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
24	曇	雨	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
25	曇	雨	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
26	曇	雨	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
27	曇	雨	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
28	曇	雨	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
29	曇	雨	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
30	曇	雨	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	未	曇	曇
平均	14	9	9			12	12	21	7	15	8	18	13	10	8	8	9	10	11
日數	18	14	13			21	18	7	18	19	18	18	10	18	15	19	17	19	29

●今月は一般に天氣が悪かつた様であるが唯札幌の下保氏のみ29日續けての觀測をされてゐる。そして殊に10日11日15日28日29日等の觀測を見るとき觀測者の地理的分布がどんなに大切なものかがよく分る。朝鮮九州其他に新しい觀測者の出現を切望する

●大阪市岡中學の井澤氏の後を佐々氏が續いて觀測、報告を寄せられる事になつたのはうれしい。